

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	佐久の 自然の中でその人らしく過ごせる様に、地域の方と交流をし、家族や、友人との繋がりを継続出来る様に、職員全員で意識し、関係強化の機会を設けている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1度のケアミーティング、毎日の申し送りにて、各介護従事者に周知徹底している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には、重要事項説明書にて明示、説明している。ホームの見易い所にも明示して見ている。地域のイベント、集まりに参加したり、地域の中を散歩して、周辺住民の方々にホームの実践を伝えるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩に出掛け、挨拶を交わしたり、花や野菜のおすそ分けを頂いたり、周辺住民とより良い関係を継続出来るよう努めている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育所との交流、公民館活動のイベント、地域のお祭り等に積極的に参加している。多目的ホールを開放して、ボランティアの活動を受け入れている。	地域内での清掃活動などにも参加し、地域の一人として、生活していけるようにしたい。

グループホーム佐久・新子田の家（たてしなユニット）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の独居高齢者宅へ伺ったり、散歩時に声をかけたりしている。人材育成の貢献として実習生を来春から受け入れる予定がある。随時、地域の方々から認知症の相談を受けている。運営推進会議の委員に地域住民として老人会長を委嘱した。		認知症の方の生活が安心してできる様に、地域住民を対象に勉強会等を行いたい。地域の老人会との交流を行いたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。外部評価の結果を活かして取り組んでいる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの実情の報告と共に、委員から質問、意見、要望を受けより良い施設運営を行っていく。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護相談員が月1回来所する時、ホームの実情やケアサービスの取り組みを伝えている。また市依頼の視察対応の際、随時問題意識を持ち、市担当者との連絡、調整を行っている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるよう支援している	県や地域の研修に参加し学んだ事を、ミーティング等で職員へ説明を行っているが、全員が対応支援出来る体制が万全とはいえないが、状況により、必要性が認められる入居者に対しては、制度利用について助言等行っている。		入居者の成年後見人である、専門家に具体的なシステムや役割について学び、制度について理解を深める機会を持ちたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県、地域の研修に参加し、高齢者虐待防止法に関する理解を深めている。		虐待防止法に基づき、どのような行為が虐待に当たるか職員が具体的に理解できるような機会を持ちたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前には、時間をとって丁寧に説明をしている。特に利用料金、起こり得るリスク、重度化や、急変時の対応など説明し、同意を得るようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員が月に1回来所するので、入居者の相談にのって頂いている。第三者の目でホームを見て意見を頂き、参考にしている。職員の中でも、申し送りや、生活の中で、入居者の言葉や、行動から察する事に努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、状況報告を行い、ご家族来所時にも様子を報告している。季節毎の新聞を発行したり、行事等の写真を見て頂いている、医療費や、私物の買い物についても報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月の経過報告や、来所時、家族会等で問いかけている。意見や要望があれば、ミーティングや申し送りで話し合い、ケアに反映させている。</p>	<p>更に意見などを基に、取組んだ内容や経過について家族へフィードバックするようにしたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング、申し送り時等スタッフがある程度揃った時や、休み時間等を活用して、意見や要望、不満を拾えるようにしているが、言い難い部分もあり、全ては把握しきれない可能性がある。</p>	<p>職員が言い難い部分については、言い易くなるような環境づくりに努める。</p>

グループホーム佐久・新子田の家（たてしなユニット）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		<p>ミーティングなどの場を使い、職員間でケアに関するのスーパービジョンを行っている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		<p>ミーティングなどの場を使い、職員間でケアに関するのスーパービジョンを行っている。特にピアスーパービジョンを行う事で、課題解決に努めている。</p>

グループホーム佐久・新子田の家（たてしなユニット）

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は随時現場にきており、ホームの実情を把握し、改善点等の意見を報告している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態を把握するように努め、ご本人の求めている事や、不安を理解しよう努めている。相談時には、必ずご本人に面会し、心身の状況を把握し、思いを理解できるようなできるだけ、職員全員に面会してもらい、サマリー等を閲覧してもらおう様にしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時、入居前の重要事項説明時には、ご家族の不安や心配を把握するようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族のニーズを検討して、出来る限り柔軟な対応をしているが、他のサービス利用も検討できるように地域のサービス機関と連携をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急対応で無い限り、ホームに何日か来て頂き、お茶や食事の時間を過ごしてもらい、ホームの雰囲気を知っていただく様にしている。緊急の場合は、ご家族や関係者に来てもらう等して、安心感を持ってもらう様にしている。		

グループホーム佐久・新子田の家（たてしなユニット）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ご本人の思いを理解する事に努めている。喜び、楽しみ、笑いを共有できるように接したいと心掛けています。悲しみ、苦しみ、怒りの感情にも前向きに取り組み、和らぐように接している。</p>	
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご本人の思いを理解する事に努めている。喜び、楽しみ、笑いを共有できるように接したいと心掛けています。悲しみ、苦しみ、怒りの感情にも前向きに取り組み、和らぐように接している。なお随時、入居者本人の現状を家族に知らせている。</p>	<p>ご家族にもご本人の言葉や思いを伝えて、理解を深める中から、共に支えていく方法を一緒に見出していく。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>ご本人の様子をできるだけ伝えて、今どんな状況にあるのかを理解して頂き、外出やお誕生日会など、できるだけ家族と過ごす事を設けている。</p>	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族やご近所の方、教え子さん等との面会や、手紙、電話の取次ぎ等を支援している。</p>	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>入居者同士の関係がうまくいく様に、職員が間に入って調整している。食事、お茶の時間に入居者が会話でも関わられるように、職員が心がけて声かけをしている。</p>	

グループホーム佐久・新子田の家（たてしなユニット）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p> <p>病院、施設に移られた方がどのような生活をしているか、ホームを訪問したご家族に聞いたり、訪ねていたりしている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> <p>関わりの中から把握できるように、努めている。ご家族から伺ったり、ご本人の言動や表情からも真意を推測できるように努めている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p> <p>ご本人の話、ご家族の話から少しずつ収集している。</p>		センター方式の中から必要なシートを選び、活用している。
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p> <p>1日の流れのなかで心身の状態を把握し、その時できることがあれば、働きかけて有する力を維持したり、自信に繋がられるようにしている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> <p>ご本人の言葉や行動を基に、日々の申し送りの中で話し合い、経過ファイルに記入してスタッフ全員が考えられるようにし、ミーティングに繋がっている。またご家族来所時に意向を伺っている。</p>		センター方式の中から必要なシートを選び、活用している。

グループホーム佐久・新子田の家（たてしなユニット）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人、ご家族の状況に合わせて、期間終了前でも両者の意向を確認しながら見直しを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にシートを用意し、身体状況、生活の様子、ご本人の言葉やエピソードは特記する事があれば記入している。特に検討したい事項については、経過ファイルに記入し、勤務開始前には全ての記録を確認している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人、ご家族の状況に応じて、通院の送迎、早期退院の支援、医療処置を受けながら環境を変えない生活の継続、終末期の支援をおこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元区の世帯（一家族）として登録し、保育所や、公民館との交流、傾聴ボランティアの訪問、地域文化活動等の参加や協力をお願いしている。		区民になり、地域の清掃活動、文化活動に参加できるよう準備している。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要なケースに限り、ご本人を知るケアマネとの話し合いはしている。		事業所以外のサービスとつなげられるように、ケアマネとの連携をとりたい。

グループホーム佐久・新子田の家（たてしなユニット）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括の管理者に出席してもらい、ホームの現状を把握して頂いた。		更に関係を強化し、情報交換、協力関係を築いていきたい。
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医との受診体制となっている。緊急時の対応として、消防署からの依頼によるシート作成し、出来るだけ主治医に受診できるように準備している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居時には、出来るだけ認知症専門医の診断を受けて頂いている。心療内科等からフォローされている場合、体調に変化があった場合は、専門医に相談している。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置しており、健康管理や体調変化に応じた支援を行っている。		看護師により健康状態や必要な医療について報告、説明がなされており、介護職員も利用者の状態が理解できている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、ご本人の情報を医療機関に提供している。面会時には、担当者との面談を設け退院支援に繋げている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	出来るだけ環境を変えない為にも、終末期を支援したいと考えているが、医療機器が常時必要な場合等、状態によって対応が変化し得ると説明している。入院等の際には、すみやかに出来るように医療機関等との連携を取っている。		終末期の支援の為に、職員にも予想される課題やその対応について、積極的に提起してもらい、一緒に支援方針を考え共有している。

グループホーム佐久・新子田の家（たてしなユニット）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>看取りや入院などでサービスが終結したケースについては、支援の振り返りを行い、今後のケアや他の利用者支援に繋げていきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>サービス計画書、支援内容や生活リズム、好みの物等、その人に関わる情報を提供している。他施設に慣れるまで馴染みの職員が、面会に行っている。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>長い間一緒に過ごしている方とは、馴れ合いになっている事がある。更にミーティングで理念に基づいて再確認していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>ご本人に合った声の掛け方、選択方法を考え、些細な事でも自己決定できるような場面を作っている。</p>

グループホーム佐久・新子田の家（たてしなユニット）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、体調や気分に配慮しながら、ご本人の希望を出来るだけ取り入れながら、個別性のある支援を行っている。(時には、ご家族の協力を取り入れて)		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自己決定が出来る方は、朝の支度は見守りをしている。しにくい方は整容、洗顔、身支度等その方に合わせて支援している。メイクのボランティアが年2回来所し、お化粧品や、マッサージを行っている。出張美容室を2ヶ月に1回希望に応じ、依頼している。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんの希望を取り入れたり、季節の行事にあった食事を作ったり、食べる事が楽しみの一つとなるようにしている。一緒に調理、盛り付け、片付けを行い、食事の時の団欒を心掛けている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好を把握できるように努め、楽しめるように、一緒に買い物に行って購入したり、ご家族に持参して頂いている。居室に冷蔵庫を置いて保存してもらい、管理している方もいる。酒類については、現在遠慮ねがっている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の状態に合わせて、下着、紙オムツ、パットを選択している。時間や、排泄前のサインを理解して、その時はさりげなく誘導している。		ご本人の状態にあわせ、ポータブルトイレを設置し、排泄の自立を促している。

グループホーム佐久・新子田の家（たてしなユニット）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の希望に出来るだけ添えるようにしている。拒む方に対しては、声掛けの工夫、足浴や清拭等の支援に代え、不安感、羞恥心の軽減に努めている。		利用者、スタッフ共に入浴に負担や義務感を感じる事なく入れるよう、入浴のペースなど利用者に合わせて、支援している。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調、気分を見極め、日中の活動を促して、自然な眠りが出来る様努めている。日中の活動量や、体調、生活習慣に応じて、午睡を促している。就寝前一緒にテレビを見たり、話をしたりして、穏やかな気持ちになり就寝できるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の生活歴、職業等から得意分野を理解し、発揮できるよう機会を作っている。職員の気持ちばかりで促さず、ご本人の体調、意向に配慮し、お願いしている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や、出先で使いたい時に対応できるよう立替制を設けている。少額であるが、所持している方もいて、外出時には使えるようにしている。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の意向、体調、気分に配慮して、季節を肌で感じてもらえるよう、散歩、ドライブ、買い物、外食に出かけている。		個別に食事や買い物に出かけている。地域の催し物にも交流を含め出掛けている。

グループホーム佐久・新子田の家（たてしなユニット）

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の協力を得て、行っている。普段の生活の中でも花見やドライブ等も企画し、スタッフの確保をして行ける様にしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話をお願いしたり、掛けたい時には自由に出来るように声を掛けている。手紙と一緒に書く等の支援を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たち、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問して頂ける様にスタッフから声をかけ、居室等で生活の様子をお話したり、ご本人とくつろげるような配慮をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自分の意思で行きたい所に危険の配慮をしつつ、行く事が出来るようにしている。その時にスタッフは見守れるよう、後からついて行けるようにしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面玄関については、ご家族、面会者等の理解を得て、鍵を掛ける様にしている。帰宅欲求による外出については、危険防止のため、スタッフが付き添い同行する。ホームへ帰る気持ちになるまで、一緒に歩いたり、車でドライブする。		正面玄関については、自動ドアを検討している。(外部からは、自動開閉、内部からは、スイッチ開閉)利用者が、居室の施錠を希望し、ご本人の安心感につながる場合は希望に添うようにし、様子の見守りや、声掛けは行っている。

グループホーム佐久・新子田の家（たてしなユニット）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はリビングにほとんどの方がいるので、業務をしながら見守っている。居室で過ごす方については、時々訪門して話をし、様子を確認している。夜間は巡視時間やその方のリズムに合わせて、様子確認している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の状況に応じてお預かりし、スタッフが管理する物、使用する時に注意が必要な物を把握し、危険を防いでいる。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	夜間帯の対応がスタッフ一人でも出来るように知識、技術を学ぶ。事故防止の為、きめ細かい配慮に心掛けている。ヒヤリハットの報告については、ミーティングや情報伝達の共有を行い、再発防止に注意する。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署より、心肺蘇生法の講習をスタッフ全員が受け、対応できるようにしている。夜間など、緊急時の連絡網を作成している。		緊急時の対応について、マニュアルを整備していきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災計画に基づき、日々避難経路の確認をしている。また地区の一世帯として区へ登録し行事の参加を含め、住民協力をお願いしている。		
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時、重要事項説明書で説明している。また、個々の状態の変化により、随時ご家族に連絡をとっている。		ご本人の状態にあわせ、ポータブルトイレを設置し、排泄の自立を促している。状況から考えられるリスクについて、ご家族には来所時に説明し、現状対応できる危険防止策について理解して貰っている。

グループホーム佐久・新子田の家（たてしなユニット）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>普段の状況を把握しており、少しでも体調の変化があれば看護師に相談、受診適応か判断している。</p>	<p>体調変化について申し送り時に職員が把握することで、継続的に変化に対応している。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>内服中の薬のシートを個人ファイルに整理し、内容を把握できるようにしている。内服時は口に入るまで見届け、個人のシートにチェックしている。変更があれば、周知できるよう看護記録に記載している。</p>	<p>症状の変化と服薬支援について、様子に応じてかかりつけ医や、看護師に相談し速やかに対応している。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>食物繊維、乳製品、水分の摂取に重点を置き、調理をしている。散歩や、レクリエーション、作業等で体を動かす機会を設けている。管理栄養士に献立の工夫についてアドバイスをもらっている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>食後、就寝前は歯磨きの声掛けを行い、見守りや介助を個人に応じて対応している。就寝前は義歯の洗浄をして誤嚥性肺炎の予防に努めている。2～3ヶ月に1度、歯科衛生士の訪問検診をしている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量の摂取量を毎食記録している。特に水分摂取が不足している人に対しては、水分摂取表を用いて状況を把握し、補食、水分補給に努めている。年1回は血液検査などの健康診断を行い、身体状況のチェックをしている。</p>	

グループホーム佐久・新子田の家（たてしなユニット）

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ご本人、家族に同意を頂き、インフルエンザの予防接種を行っている。ノロウイルス対策として外来者にもアルコールの噴霧、ペーパータオルの使用をおこなっている。感染症等に関する研修会に参加し、知識向上に努めている。		事業所内で起こり得る感染症に対してのマニュアル作成をしていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきんは毎日漂白除菌をし、ハンドタオルは適宜交換し、食器洗浄機でも適宜洗浄している。冷蔵庫の点検を行い、賞味期限ぎれの物は処分して保清に努め、ほぼ毎日買い物に行き、新鮮で安全な食材を購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口にベンチ、プランター、花壇を設け、玄関内には花や緑を置いて、家庭的な雰囲気を出している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆がよく集まるリビングには、季節の雰囲気や行事に応じた飾りつけを、入居者とともにしている。花や植木鉢を置き、照明、室温、音(音楽)等環境の整備にも気配りをしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、リビングの隅には座卓を置き、人の気配を感じながらも一人で、少人数で過ごせるスペースを設けている。		

グループホーム佐久・新子田の家（たてしなユニット）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や、日用品を置き環境の変化によるダメージを最小限にしている。過ごしていく中で必要となった物についてはご本人、ご家族と相談し置くようにして、居心地よく生活できるようにしている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	スタッフの感覚だけでなく、外気温に合わせて冷暖房の調節、居室床暖房や湯たんぽの使用を行っている。朝の掃除中(居室、共有空間)など適宜、換気を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すり、浴槽のボード、キャスター付きの浴用椅子、リクライニングつきベッド、ポータブルトイレ、わずかな段差、家具の配置など、個人の状況に合わせて見直し、安全確保と整備に努めている。		個人の状況や能力を職員が把握し、能力を最大発揮出来るような日常生活の支援と安全の確保を行っている。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人が、心身共に穏やかに生活できる様な環境を心がけ、問題があった場合はそのつど検討し、改善できるようにしている。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭は特に作物や花、果樹があり、手入れや収穫、観賞して季節を五感で感じ、楽しんで活動できるようにしている。季節によってはバーベキュー等、外の食事をしたり、焼き芋会、花火などを企画し楽しんで頂いている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に つけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホーム佐久・新子田の家（たてしなユニット）

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

時間や手間が掛かる時でも、一人ひとりにあった支援をし、職員、ご本人、ご家族皆で考えながら支援の方向性を決めています。理念にある様に、ほがらか、すこやか、なごやかに利用者本位のゆったりした、穏やかな生活が出来るよう、家庭的な雰囲気を忘れないようにしています。